

第2学年 国語科学習指導案

児童 2年2組 男子13名 女子11名 計24名
指導者 伊藤 眞由美

- 1 単元名** 分かりやすさを考えて読み、せつ明書を書こう
学習材名 中心学習材 「しかけカードの作り方」 (光村図書2年)
「おもちゃの作り方」
補助学習材 児童が選んだ本

2 児童と単元について**(1) 児童について**

本学年の児童が、昨年度、説明的文章の学習において学習した主な読みの方法は次の四つである。付きたい力「書かれている事柄のおおよそをとらえる」(読むこと イ)に関しては、「挿絵や写真と文章を照応して読む」「文末表現から文を区別して読む」「問いと答えの文を関連付けて読む」という方法、付きたい力「順序をとらえながら読む」(読むこと イ)に関しては、「事柄の配列に気を付ける」という方法である。言語活動としては、動物クイズブック、自動車ブック、動物の赤ちゃんカード作りを経験している。2年生になってからの説明的文章の学習では昨年度学習した読みの方法に加え、付きたい力「順序をとらえながら読む」(読むこと イ)に関して、「時間や順序を表す言葉に着目しながら読む」という方法も学習した。言語活動としては、植物に関する本の読書に広げていった。

昨年度の CRT の結果をみると、読むこと領域全体の結果は、全国比 10 ポイント程度上回っていることから、読むことの力は定着しつつあると考える。普段の児童の様子を見ていると、これまでの学習で、説明的な文章の順序や様子などを考えながら、大体をつかんだり、文末表現に着目し、問いと答えの文を探し、それらが関連して書かれていることをとらえたりすることができるようになってきている。更に、事柄の配列に気を付け、文章構成にも気付くことができるようになってきた。しかし、その反面、内容をよく考えて読んでいなかったり、細部に気を付けないで読んだりすることがある。そのため、読み取りの際に叙述に戻したり、指導者が意識的に細部に着目できるような発問を組み入れていたりすることで読み取る力を付けていくことが必要であると考えられる。

読書についての傾向を見てみると、大半の児童は進んで図書室に通ったり、隙間時間には好んで読書をしたりする姿が多く見られるようになった。その内容としては、絵本や物語を好んで読んでいる児童が多い。そこで、本単元では、児童がなかなか読むことがなかった物作りに関する本を紹介することにより興味をもたせ、読書の幅を広げていきたいと考える。

(2) 単元と学習材について

本単元「分かりやすさを考えて読み、せつ明書を書こう」は「読むこと」「書くこと」の二領域を関連付けた学習ができる。そこで、学習指導要領・読むこと指導事項イに関する「順序を表す言葉や写真・挿絵を手がかりにして文章を読む力」と、書くこと(イ)「分かったことを基に、内容を自分で選んで説明書を書くこと」を育てることをねらいとし、生活科のおもちゃランドで1年生にプレゼントするおもちゃに説明書を付けて渡すために書くという言語活動を行う。

「しかけカードの作り方」は、開くと中にあるものが飛び出すというカードの作り方を、写真と文で分かりやすく説明している学習材である。児童が、興味をもつ題材を実際に作りながら、説明の仕方を確かめることができると考える。また、順序を表す言葉を使ったり、説明に対応する写真や実際の長さ

を示したりしているもので、分かりやすさを実感できると思われる。文のまとまりや内容を考えながら読み、文章が写真のどの部分にあたるかを確かめたり、順序を表す言葉に着目して読んだりすることで、内容の大体を読み取る力を付けさせていきたい。また、説明書の形式の文章を学習するのは、はじめてなので既習の説明的な文章にはなかった、見出しの書かれ方にも着目させることにより、説明書の特徴に気付かせていきたい。さらに、「おもちゃの作り方」では、読むことで学習した分かりやすさがどこなのかを確かめた上で、学習材と同じように、見出しを書いたり、順序を表す言葉を使ったりし説明書を書くことができるようにしていく。このように、本学習材は、順序を表す言葉に着目し、写真や挿絵を手がかりに読み進めていくことにより、内容の大体を読み取る力を育てるのに適した学習材である。さらに、読み取った説明的文章の特徴を生かし、事柄の順序を考えながら書く力を身に付けることもできると考えられる。

(3) 単元指導計画の工夫について

ア 付けたい力と読みの方法

【付けたい力】

○読みの方法

【書かれている事柄のおおよそをとらえる】

○挿絵や写真と文章を照応して読む。

「挿絵や写真と文章を照応して読む」については深める段階で、説明書の分かりやすさを見付ける時に扱う。学習材と写真を除いたモデル文を比較し、分かりやすいのはどちらかを考えさせる。児童はすぐに、写真があるほうが分かりやすいことに気付くと思われる。その後、写真を除いた文章を読ませていく。そうすることにより、言葉に気を付けて文章を読まなければ、しかけカードの作り方が分からないことに気付かせたい。そして、写真を提示し、文章と写真をつなげて確かめながら読む活動を取り入れていくことで、文章だけでは分かりにくいものも、写真があることにより分かりやすくなるということをとらえさせる。更に、文章と写真がつながっていないものを提示して考えさせることで、文と写真のつながりの大切さについても気付かせていきたい。また、そのことが、説明書を書く時の分かりやすさの要素の一つになることをつかませたい。

【順序をとらえながら読む】

○順序を表す言葉に着目しながら読む。

・まず ・つぎに ・それから ・こんどは ・さいごに ・これで

○事柄の配列に注意して読む。

・材料と道具 ・作り方 ・つかい方

読みの方法 1 点目、「順序を表す言葉に着目しながら読む」については、深める段階で指導する。見出し・順序を表す言葉（段落）・写真を除いた文章を提示し、学習材と比べる活動をする。そうすることにより、書き換えられた文章の読みにくさや説明の分かりにくさに気付かせたい。その後で、見出し・順序を表す言葉とそれに伴った段落・写真があることで、読みやすかったり分かりやすかったりすることをとらえさせる。その分かりやすさの要素（見出し・順序を表す言葉・挿絵・写真）は自分で説明書を書く時に大切になることとらえさせる。

読みの方法 2 点目、「事柄の配列に注意して読む」についても、深める段階で指導する。見出しのない説明書と見出しのある説明書を提示し、その 2 つを比較することで、見出しがあったほうが分かりやすいことをつかませる。そして、本単元の学習では、このように分かりやすい説明書を書いていくということをつかませる。2 つの文章の比較を通して、見出しの順序や内容についても確かめ、自分で説明書を書く時の意識付けをしていきたい。

イ 言語活動

「事物について説明した本や文章を読み、説明書を書くこと」

様式：説明書「○○の作り方」

字数：300～400字程度

要素：見出し（材料と道具、作り方、使い方〈遊び方〉）、順序を表す言葉、写真・挿絵

目的：生活科のおもちゃランドで1年生にプレゼントするおもちゃの説明書を書く。

相手：1年生

広める段階では、深める段階で読み取った説明書の分かりやすさの要素を入れて、説明書を書く活動を行う。相手は生活科のおもちゃランドに招待する1年生とする。1年生にプレゼントをするためには分かりやすく書く必要があることを、単元を通して意識させていく。また、1年生にプレゼントを渡す前に、現中学1年生に説明書の分かりやすさを確かめてもらう。現中学1年生は、昨年度の兄弟学級の相手で、児童が大好きな存在である。昨年度、児童が説明的文章の学習をした時には、言語活動として作った「自動車ブック」を読み、学習した観点に沿って感想も書いてくれているので、昨年より成長した自分を伝えることができる。しかも、書いたことを評価してくれる相手でもあるので、意欲的に学習に取り組むための一助になると考える。現中学1年生には、自分たちが作った「しかけカード」にメッセージを書いて渡そうという意欲ももたせていく。

はじめは、指定されたいくつかのおもちゃ（説明の段階が3～4のもの）の中から自分が相手にプレゼントしたい物を決めて、説明書を書く活動をする。説明書を書く前に、自分でもおもちゃを作ること手順を確認したり、作る時の注意点などに気付かせたりする。その後、分かりやすさの要素（見出し、順序を表す言葉、写真・挿絵）に気を付けて説明書を書かせていく。挿絵については、書くことが難しいことも考えられるので、段階ごとに書かれてあるものを用意しておき、必要な児童には使わせていく。更に、次の段階として、単元に入ってから並行読書をしていたものの中から、自分が書きたい物の説明書を書く活動も実態に合わせて取り入れていく。また、自分がこの学習で習得した力を書くことを通して相手に発信できる楽しさを感じさせること、書いたものを相手から評価してもらったりすることで充実感を味わわせていきたい。

ウ 見通す場と振り返りの場

単元を見通す段階では、題名から「しかけカード」について知っていることを話し合わせる。その後、実物を提示し自分でも作ってみたいという意欲をもたせる。そこで、みんなで「しかけカード」を作る。その後、単元名後半の「せつ明書を書こう。」を知らせ、自分で説明書を書いてみる。そうすることにより、説明書を書く時の難しさや書き方が分からないことに気付かせていきたい。そして、作品を上手に作るためには、説明書が必要であることを日常生活と関連付けて気付かせていく。その後、説明書は分かりやすいものでなければいけないことを確認し、単元名「分かりやすさを考えて読み、説明書を書こう。」を提示する。説明書を書いたら、おもちゃランドに招待する1年生にプレゼントをすることを自分たちで気付くようにしていきたい。また、プレゼントをする前に現中学1年生に読んでもらい、合格したら渡そう。というめあてももたせる。児童にとっては、大好き相手なので、意欲的に学習にも取り組んでいくことができると思われる。また、見通す段階の後半では、色々な本を読んで作った作品とその本を提示することで、読書活動にも進んで取り組ませていきたいと考える。

学習の振り返りは、まとめる段階で行う。単元全体を通して学習したことを振り返り、文章にまとめる活動を行う。書かせる内容としては、説明書を分かりやすく書くために必要なこととする。そのことを自覚させることにより、今後の自分の生活の中でも活用できる場面があると考えられる。また、説明書を書いた時に、添書を書かせることで自分の文章の振り返りもさせる。また、それに対する返事をもったりアドバイスをもったりすることは、自分の表現をよりよくするための助けになると考える。

3 単元の目標と評価規準

	単元の目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	○自分が決めた作品の作り方を説明するために、関連した本を進んで読んだり、説明書の書き方を基に進んで書いたりしようとするができる。	・自分が決めた作品の作り方を説明するために、関連した本を進んで読んだり、説明書の書き方を基に進んで書いたりしようとしている。
書く能力	○作り方の手順を考え、順序を表す言葉を使って説明書を書くことができる。	・説明書を書く時の分かりやすい要素(見出し・順序を表す言葉・挿絵)を入れて、説明書を書いている。 〈イ〉
読む能力	◎説明されている事柄の順序や、写真と文章のつながりを確かめながら文章の大体を読むことができる。	・作品の作り方が書かれた文章から、分かりやすい説明の要素を読み取っている。 〈イ〉
言語についての 知識・理解・技能	○言葉には、事物の内容を表す働きがあることについて気付いて、文や文章を読むことができる。	・順序を表す言葉に気を付けて、文章を読んだり書いたりしている。 〈イ(ア)〉

4 単元の指導計画と評価規準(全 14時間)

段階	時	学習活動	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能	補助学習材
見 通 す	1	ブックトークをし、物作りに関する本に興味をもたせる。題名と「しかけカード」の見本から、自分も作ってみたいという意欲をもつ。自分でも「しかけカード」を作り、その後、単元名(後半「せつ明書を書こう。」のみ)を知り、自分でも説明書を書いてみる。	進んで「しかけカード」を作ろうとしている。(観察)	書く能力		・中心学習材のモデル文 ・物作りに関する本(並行読書)
	2			自分で考え、説明書を書いている。(学習シート)		
	3	自分たちの書いた説明書を振り返り、単元を通した課題を見付ける。単元名やゴールとなる言語活動を確かめ、学習計画を立てる。	既習の学習計画を参考に学習計画を考えようとしている。(観察、発言)			
	4	全文を通読し、新出漢字、難語句の意味を確認する。			中心学習材を読んで分からない語句について辞書を利用して調べている。(観察)	
深 め る	5	中心学習材を既習学習材と同じように、始め・中と分け、終わりの部分がないことに気付く。	説明書の分かりやすさを進んでとらえようとしている。 (観察)	既習学習材と中心学習材の文章構成を比べ中心学習材は「始め・中」に	分からない語句について辞書を利用して調べている。 (観察)	

				なっていて「終わり」がないことに気づき分けている。(観察、学習シート)	順序を表す言葉に気付いている。(学習シート、観察)	
	2 組 本 時	6 二つの説明の比較を通して違いを明らかにし、その違いを基にして中心学習材の説明の分かりやすさを考える。		二つの文章は「見出し」「順序を表す言葉」「写真」の3つの違いがあり、3つの要素を入れて説明書を書くと分かりやすいことをとらえている。(学習シート、発言)		中心学習材のモデル文
		7 中心学習材の説明の段落内の書き方を知る。		一つの段落の中の文の構成について気付いている。(観察、学習シート)		
広 め る	8	「けん玉の作り方」を読み、前時までの読み取りを生かし、分かりやすい書き方について確かめる。 「けん玉の作り方」を読みながら、自分でも作り、分かりやすさを実感したり付けたしたいことを考えたりする。	「けん玉の作り方」を読み、進んで作品を作ろうとしている。(観察)	書く能力 「けん玉の作り方」を読み、説明書を書く時の分かりやすさの要素が入っていることに気付いている。(学習カード、発言)	分からない語句について辞書を利用して調べている。(観察) 順序を表す言葉に気をつけてせつ明書を書いている。(学習シート、観察)	
	9	提示された、いくつかの作品の中から自分が紹介したいおもちゃを決め自分で作ってみる。その後、説明書を書く上で大切な要素を確かめて説明書を書く。並行読書をしていた中から、自分が決めた物について、説明書を書く。	自分が紹介したいおもちゃを決め、必要な要素を入れて説明書を書こうとしている。(観察)	書く能力		自分が決めた本
	10			自分が紹介したいおもちゃを決め、説明書に必要な要素をいれて書いている。(観察、学習シート)		
	11					
12	自分が書いた説明書について添書を書く。		自分の書いた説明書について、良く書けているところや難しかったところについて書いている。(学習シート)			

	13	添書の返事を基に説明書の清書を書き、友達と読み合い、説明書を書く時の分かりやすさの要素が入っているか確かめ合う。		友達の説明書を読み分かりやすさの要素が入っているか確かめ合っている。(観察、発言)		
ま と め る	14	単元の振り返りをする。説明書を現中学 1 年生に届け学習の成果を確かめる。その後、1 年生に説明書と作品を届ける。	学習したことを振り返ったり、成果を確かめたりしている。(観察)	学習を振り返り、良くできたところ、難しかったところを確かめている。説明書を書く時の要素について振り返っている。(発言、学習シート)		

5 本時の指導(6/14)

(1) 本時の目標

二つの説明の仕方の比較を通して違いに気付き、その違い(見出し・順序を表す言葉・写真)を基にして中心学習材の説明のわかりやすさについて考えることができる。

(2) 本時の評価の観点と評価規準

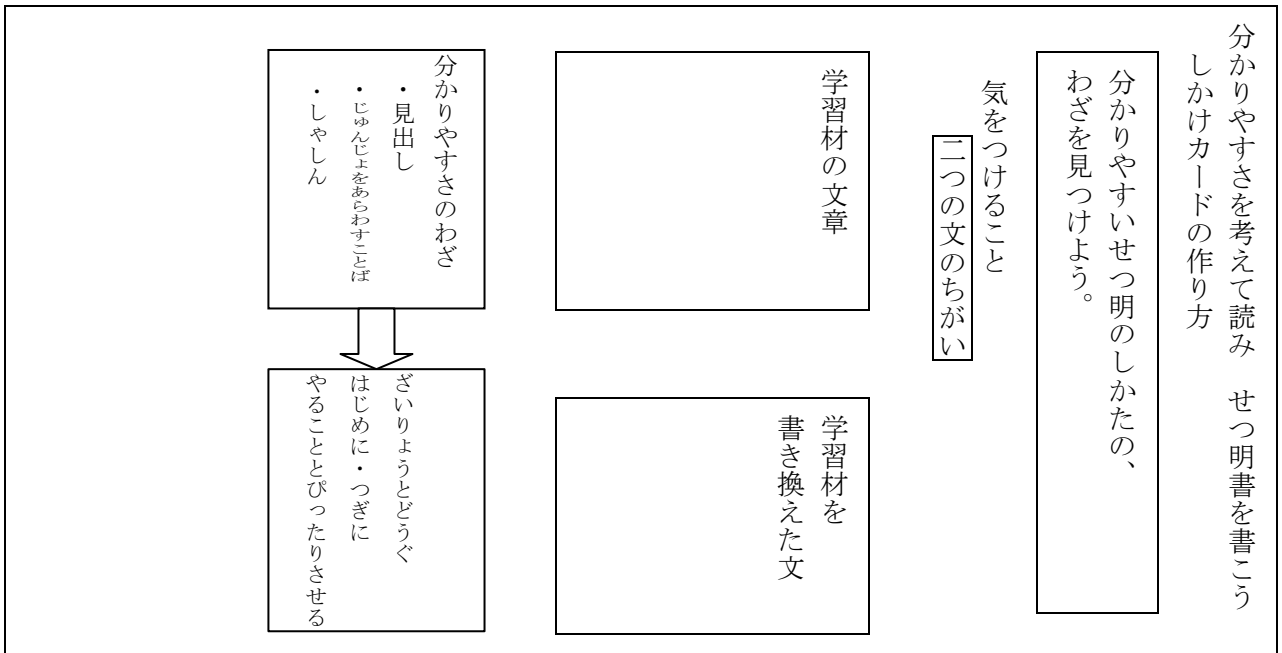
観点	評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への手立て
読む能力		Bに加えて 学習材をさらに、分かりやすくする方法について書いている。 例)1年生が分かりやすいように、段落と段落の間をあけて書きたいです。写真を付けるところも工夫したいです。	二つの文章は「見出し」「順序を表す言葉」「写真」の3つの違いがあり、3つの要素を入れて説明書を書くことと分かりやすいことをとらえて書いている。 例)せつ明書を分かりやすく書くわざは、 ・見出しを書く。(ざいりょうとどうぐ、作り方、つかい方) ・じゅんじょをあらわすことばを入れて書く。(まず、つぎに、それから、こんどは、さいごに、これで) ・しゃしんをじゅんばんに入れる。(文とぴったり)ことです。	板書を見て、話し合ったり、まとめたことを確認したり、二つの文章を比較して分かったことを確かめたりさせる。

(3) 展開

段階	学習活動	教師の支援
	○発問・期待する児童の反応	学習内容 ◎評価・留意事項
見 通 す 5 分	<p>1 単元のねらいを確認するとともに、前時の学習を振り返る。</p> <p>○自分たちで説明書を書いたら分かりやすく書くことができませんでした。今日は、1年生が分かりやすい説明書の書き方を調べていきます。</p> <p>2 分かりやすい文を確かめる。</p> <p>○二つの説明書を用意しました。どちらが分かりやすいでしょう。</p> <p>3 課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>わかりやすいせつ明のしかたの、わざを見つけよう。</p> </div> <p>4 課題に対する読みの視点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの文のちがひ 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がはじめに書いた「しかけカードの作り方」の説明書を、分かりやすく書くのが難しかったことを思い起こさせる。 ・単元のゴールとなる言語活動と相手を確認かめ、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。 ・学習材と学習材を書き換えた文章（見出し、順序を表す言葉、写真、箇条書きを除いたもの）を提示する。視覚的に比較させ、どちらが分かりやすいか考えさせる。分かりやすい説明書の理由を考えていくことを確かめる。 ・分かりやすく書くために気を付けることがわざであることを確かめる。 ・課題確認後、学習の流れについて確かめる。 ・二つのモデル文を比較し、違いを見付ければ分かりやすさにつながることを確かめる
深 め る 27 分	<p>5 課題に対する考えをもつ。</p> <p>(1) 学習材の分かりやすさについて考える。</p> <p>○ふるうちさんの説明が分かりやすいのはなぜでしょう。</p> <p>(2) 学習材の分かりやすさについて、班で話し合う。</p> <p>6 考えを確かめる。</p> <p>(1) 全体で確認する。</p> <p>○班で話し合ったことを、発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料と道具・作り方・つかい方と分けて書いているから分かりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめは、二つの文が書いてある学習シートを見て自分で考えさせる。 ・自分で考えた後に班で話し合わせ、自分では見付けられなかったところにも気付くようにさせる。 ・二つの文を比較して、見付けた違いが分かりやすさにつながることを確かめる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「まず」「つぎに」があって作り方の順番が分かりやすい。 ・写真があると分かりやすい。 ・段落があって分かりやすい。 <p>○段落と順序を表す言葉、写真はどのようなつながりになっているか考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やることの下に、その写真がきている。 ・段落のはじめに順序を表す言葉が書いてある。 ・一つの段落に一つの写真がある。 ・写真とすることが合っている。 <p>7 学習材をより分かりやすくする方法を考える。</p> <p>○少し工夫をすると、ふるうちさんの説明書がもっと分かりやすくなります。どのようにすれば良いですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段落と段落の間を少し空けた方がいい。 ・写真の場所を変えるといい。 	<p>説明書に必要な要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見出し（ざいりょうとどうぐ、作り方、つかい方） ・順序を表す言葉（まず、つぎに、それから、こんどは、さいごに、これで） ・写真（文とぴったり） <p>・箇条書きや、段落についても意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習材は写真を提示しているが、絵でも良いことを確認する。 ・文章と写真が繋がらないモデルを提示することで、つながりの大切さや、写真は作り方の順番になっていることに気付かせる。 ・段落のはじめに、順序を表す言葉が書いてあり、それに1つの写真を付けて説明していることに気付かせる。 ・自分たちが説明書を書く時の手本となるので、よりよくする方法を考えさせる。
<p>まとめ 13分</p>	<p>8 学習のまとめをする。</p> <p>○説明書を分かりやすく書くためには、どんなわざがありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見出しを書く。 （ざいりょうとどうぐ、作り方、つかい方） ・段落のはじめに順序を表す言葉を入れて書く。 （まず、つぎに、それから、こんどは、さいごに、これで） ・写真とすることを合わせる。 （文とぴったり） <p>9 学習について振り返る。</p> <p>○今日の学習を振り返って、分かったことや、感想を書きましょう。</p> <p>○分かったことや感想を隣の友達に話しましょう。</p> <p>10 次時の学習について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を見ながら、本時の学習のまとめをする。 <p>◎説明書を書く時の要素「見出し」「順序を表す言葉」「写真」があると分かりやすいことをとらえることができたか。（シート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が良いことを書いている児童にはどこが良いと思ったかを発表させ、書いた児童にも発表させる。

(4) 板書計画



本単元の学習指導一覧表

単元名

分かりやすさを考えて読み、せつ明書を書こう

中心学習材

しかけカードの作り方
おもちゃの作り方

目標：説明されている事柄の順序や、写真と文章のつながり確かめながら文章の大体を読むことができる。(読むこと イ)

段階	主な学習活動	主な評価	○読みの方法 ・補助学習材
見通す 単元全体のめあてをつかみ、学習計画を立てる。	① ②ブックトークをし、物作りに関する本に興味をもたせるとともに、題名と「しかけカード」の見本から、自分も作ってみたいという意欲をもつ。自分でも「しかけカード」を作り、その後、単元名(後半「せつ明書を書こう」のみ)を知り、自分でも説明書を書いてみる。 ③自分たちの書いた説明書を振り返り、単元を通した課題を見付ける。単元名やゴールとなる言語活動を確かめ、学習計画を立てる。	①②進んで「しかけカード」を作ろうとしている。(関：観察) 自分で考え、説明書を書いている。(書：学習シート) ③既習の学習から学習計画を考えようとしている。(関：観察、発言)	・物作りに関する本
深める 中心学習材の分かりやすさを読み取る。	④全文を通読し、新出漢字、難語句の意味を確認する。 ⑤学習材を既習学習材と比べ同じように、始め・中に分け、終わりの部分がないことに気付く。 ⑥(2組本時)二つの説明の比較を通して違いを明らかにし、その違いを基にして中心学習材の説明の分かりやすさを考える。 ⑦中心学習材の説明の段落内の書き方を知る。	④説明書を読んで分からない語句について辞書を利用して調べている。(言：観察) ⑤既習学習材と中心学習材の文章構成を比べ中心学習材は「始め・中」になっていることに気づき、分けている。(読：観察・学習シート) ⑥二つの文章は「見出し」「順序を表す言葉」「写真」の3つの違いがあり、3つの要素を入れて説明書を書くことと分かりやすいことをとらえている。(読：学習シート、発言) ⑦一つの段落の中の文の構成について気付いている。(読：観察、学習シート)	○順序を表す言葉(まず、つぎに、それから、こんどは、さいごに、これで) ○見出しの並び方 ○写真・挿絵
広める 学んだことを生かし、せつ明書を書く。	⑧「けん玉の作り方」を読み、前時までの読み取りを生かし、分かりやすい書き方について確かめる。「けん玉の作り方」を読みながら、自分でも作り、分かりやすさを実感したり付けたしたいことを考えたりする。 ⑨⑩⑪提示された、いくつかの作品の中から自分が紹介したいおもちゃを決め、自分で作ってみる。その後、説明書を書く上で大切な要素を確かめて説明書を書く。並行読書をしていた中から、自分が決めた物について、説明書を書く。 ⑫自分が書いた説明書について添書を書く。 ⑬添書の返事を基に説明書の清書を書き、友達と読み合い、説明書を書く時の分かりやすさの要素が入っているか確かめ合う。	⑧「けん玉の作り方」を読み、説明書を書く時の分かりやすさの要素が入っていることに気付いている。(学習カード、発言) ⑨⑩⑪自分が紹介したいおもちゃを決め、説明書に必要な要素を入れて書いている。(書：観察、学習シート) ⑫自分の書いた説明書について、良く書けているところや難しかったところについて書いている。(学習シート) ⑬友達の説明書を読み分かりやすさの要素が入っているか確かめ合っている。(観察、発言)	○順序を表す言葉(まず、つぎに、それから、こんどは、さいごに、これで) ○見出しの並び方 ○写真・挿絵 ・物作りに関する本
まとめる 学習の振り返りをする。	⑭単元の振り返りをする。説明書を中学1年生に届け、学習の成果を確かめる。その後、1年生に説明書と作品を届ける。	⑭学習を振り返り、良くできたところ、難しかったところを確かめている。説明書を書く時の要素について振り返っている。(読：発言、学習シート)	

ゴールに据える言語活動

【言語活動】事物について説明した本や文章を読み、説明書を書くこと 【様式】説明書「○○の作り方」
 【言語能力】分かりやすいせつ名書を書くための要素が分かり、それを使ってせつ明書を書き1年生にプレゼントする。
 【要素】見出し(材料と道具、作り方、使い方・遊び方)、順序を表す言葉、写真・挿絵